

音の鳴る信号きがあればいいのに

油縄子小学校 四年 吉岡 充希

私の家の近くに、目が不自由で白杖を使っている人がいます。いつも一人なので、目が見えないのに、一人で外出するなんてすごいな、と思います。

ある日、お母さんと車で信号待ちをしている時、横だん歩道の信号が赤なのに、その人があたり始めてしまいい道路を走っていた車が止まって待っているのを見ました。みんな止ま。たからよか。たけど、よそ見をしている運転手がいたら事こにな。ていたかと思うと、とてもこあか。たです。

お母さんによれば、その交差点は、白杖の人がいつもわたるので、地元の人には、近くにその人がいると、みんなスピードを落とすそうです。歩いて仕事に通っているお母さんは、その交差点でその人といっしよにあたる時は、信号の赤と青をお知らせしているそうです。前に、青に変わ。たのに、わからなくてず。

と待っているすがたを見かけてから声をかけているそうです。そう言えば、他の交差点で見かけた時も、男の人が声をかけていたことがありました。買い物でも、レジ係の人がお金のしはらいと、荷物のふくろづめを助けてあげていました。色いろなお手伝いが、その人の生活をささえているんだな、と思い、心が温かくなりました。

信号の色が変わった事をお知らせするなら、私にも出来ると思います。まだゆう気が足りないのです、お母さんかお父さんという時に書いてみます。でも、大切な事は、目の不自由な人が住んでいる地いきの交差点には、音で色の変化を知らせる信号きをせ、ちする事だと思えます。そうすれば、赤信号でわたってしまうことも、青信号が分からない事もなくなり、目が見えない人も見える人も、安心して生活できるようになると思います。